

浄

monthly
JÔDO

土

July・August 2002

7・8

合併号



法然上人鑽仰会

ブロードバンドは、サービス品質で選ぶ。

世界をつなぐ未来につなぐ
日本テレコム

ODNのADSLは最大1.5Mbpsの
超高速インターネット

*回線速度は、あくまでも理想値で保証されるものではありません。
また、提供局からの距離などの要因により変化することもあります。

コンテンツも充実

ODNの「ブロードバンドチャンネル」は、音楽やスポーツ、
エンターテインメントにドラマ、料理など楽しい内容が盛り込まれています。

さらに大幅値下げ!

2,880円/月
24時間
常時接続

○初期費用6,600円—
○モデムレンタルの場合 500円/月
*NTT東日本・西日本の通話使用料と
して187円/月(タイプI)が別途必要です。
*記載の価格は消費税別
(平成13年10月現在)

サービス
提供エリア
拡 大 中

札幌・仙台・東京・立川・
国分寺・武蔵野三鷹・千葉
市川・川崎・横浜・浦和・
川口・名古屋・京都・大阪
茨木・堺・八尾・岸和田
田原・豊和・和歌山・神戸
北九州(平成13年8月10日現在)

*上記のエリアであっても、ご
提供できない場合があります。詳しく
はホームページ、またはテレ
ホンサービスでご確認ください。

【提供エリア案内センターサービス】

☎0088-222-357

【提供エリア検索ホームページ】

<http://www.odn.ne.jp/j-dsl/>

ODNフレックサDSLプランもあります。



初心者でも安心の
サポートサービス

お問い合わせ
お申し込み
〈ODNサポートセンター J-DSL担当デスク〉
(受付時間) 9:00~18:00 (年中無休)

☎0088-222-375

日本テレコム
ならではの
保守管理体制

インターネットは日本テレコム
ODN
Open Data Network

ODNのADSL
J-DSL
パーソナル

寺院紀行

寺に歴史あり。
人々に信仰あり。
日本の
心の故郷を紀行する。

千住

勝専寺

三宮神山大麓院勝専寺、第三十三世水野了雅住職と赤煉瓦造りの勝専寺本堂。





阿弥陀三尊を祀る本堂内陣。阿弥陀如来像は開山、勝蓮社専阿上人の作といわれるが、定かではない。



徳川幕府から許された赤門。この門から赤門寺の通称が就いている。



徳川家光公寄進の鷲大明神像。
大鷲の上に乗るのはお釈迦さま。



寺宝の千住観音像。この観音像の名前から、この
地を千住と呼ぶようになったともいわれている。



玄関を入ると広いロビーと中庭が望める。
貴重な空間となっている。



隅田川に架かる千住大橋。
宿場町となった千住のシンボル。



勝専寺の閻魔さまはいまでも正月と七月に縁日が出てにぎわっている。



赤いタイルが敷かれた旧日光街道から右手に伸びる勝専寺参道。
右手奥に勝専寺の赤門が見える。



第三十三世の水野了雅住職。
確固たる信念が漂うお人柄だ。

浄土

2002/7・8月号 目次

カラーグラビア寺院紀行千住・勝専寺.....	写真 タカオカ邦彦	1
音楽にみる東西の和	高橋大海	6
表紙の言葉	鈴木奈緒	13
お施餓鬼お盆法話	羽田恵三	14
寺院紀行千住・勝専寺.....	真山 剛	20
民話をたずねて.....	石崎敬子	28
食と健康	長田英樹	36
シリーズ詠唱・山形誓願寺.....		38
浄土誌上句会.....	選者＝増田河郎子	48
マンガで楽しい仏教用語.....	藤井ひろし	51
編集後記		52

表紙題字＝浄土門主 中村康隆 祝下
アートディレクション＝近藤十四郎
協力＝迦陵頻伽舎



音楽

にみる

東西

の

和

高橋大海

東京芸術大学教授
真言宗観智院住職

最近、テレビで、しばしばシューベルトのアヴェマリアが流されています。自動車会社のコマーシャルだそうです、是非これを聴いてみてください。と言つても、私はその会社から依頼されたわけではありませんから、画面を消してください結構です。問題は、その歌の節回しにあります。

よく聴くと、歌い始めの「アヴェマ」のあたりまでは、クラシックですが、「リア」に至つて、大きな変化が起きます。シューベルトが聴いたら、肝をつぶすような、自由な変化をつけています、が、これこそが、これから申し上げる「日本人の好む音楽における趣向」に関係しています。それは日本の音楽が持つ傾向、好み、趣味のなかに潜在的に存在する「時間の自由なあり方、時間の無限性にゆだねる感性」といえるもので、いわば、音楽の五線譜からの日本的「解放」なのです。

今、私達が耳にする音楽のほとんどは、西洋の音楽、いわゆる洋楽をベースにしています。洋楽の成り立ちは、正確な規格に適合する部品の集合体と言うことが出来ます。皆様もご存じの5線譜、いわゆるオタマジャクシは、その規格の原点と言つて良いでしょう。オタマジャクシは、一つ、二つと数えられることが特長です。時間を短い単位に切りとつて、ユニット化することが、第一です。時は本来連続した存在ですが、それを秒単位に切りとつて、大量に使用して、曲に仕立ててしまう、などというのは、大変なことです。

日本の感性は、そのような、人為的なものではありません。

時の流れをそのままに、自らの声をそれにゆだねて、ある時はゆったりと、ある時は微

細なその価値を濃密に享受して、素早く、跳躍してゆきます。

アヴェマリアのコマーシャルの終わり近く、「リア」の部分で、原曲にない、細かな、そして自由な音の飾りは、この日本の、日本人の本質的音の趣向にぴったりになっています。その理屈を知った上での、利用なのか、感覚的に選択したのかは、わかりませんが、導入部にクラシックの有名な曲を使って万人を惹きつけながら、それをそのままでなく、肝心の決め所で、日本人の好むところを刺激するような手法を用いています。今の日本の自動車購買層にピッタリの選曲とアレンジと言つて良いでしょう。この意味で、このディレクター、スポンサーは、日本人の好みを見抜く才に長けているといえます。

ところで、音楽には、メロディーが有りますが、メロディーの数によつて、いろいろに区分されます。そして、メロディーとメロディーの調和を計ることによつて、ハーモニーが、生まれます。一つの音と、他の音との関わり方を上手に設定してやることによつて、音の調和、和声が生まれます。音は、一つでは、音楽になりません。複数の音が関わり合つて、そこに音楽が生まれます。

これは、同時に鳴る複数の音のことと理解されますが、実は、時間を前後することによつて、前の音とあとの音との関係においても、このことがいえます。

人間は、音を記憶することによつて、前後の音の関係を利用した、音楽というものを楽しむことが出来ます。もし、音を記憶できない生き物だったらば、その瞬間の音のみで総てを判断することになって、音楽も、言語も成立しないことになります。

一つずつの音を連ねて、メロディーとし、メロディーとメロディーの組み合わせで、モティーフ、楽節、楽章、交響曲などと、だんだん大きな曲として、構成できるのも、記憶力があって初めて可能になります。

では、ここで、洋楽の音の組み立て法を分析してみましよう。

この世に何らかの力（エネルギー）が発生すると、それは「次に何かを引き起こす」という因と果の関係を音の世界に持ち込み、音によって示した《力学的》法則が洋楽におけるハーモニーで日本語では「和声」と訳されました。

因となる「力を持った存在」をドミナント（Dominant）、果となって生じ「標榜する名」となるものをトニック（Tonic）、そして「因の因」となる存在をサブドミナント（Subdominant）と名づけています。

明治の人たちは、それを次のように訳しました。

力の存在ドミナントを属和音、代表する名となる存在トニックを主和音、そしてサブドミナントを下属和音。

和声の力学を正しく理解した上での訳だったかどうかには、疑問が残りますが、それで百年が過ぎましたので、その訳名を使わざるを得ません。ただし、理解していただきたいのは、前に述べた因と果の関係則です。

ドミナント＝緊張がトニックという主体を生じせしめ、それがまた次の因となって行く関係が、音楽の仕組みを成立させている。そしてそれが次々に発展し展開して一つの楽曲

が完成してゆくのです。

洋楽におけるこの機能を機能和声と称して、ヨーロッパの音楽の骨格を支配しています。仏教における因果の法則も同様の関係則ですが、ヨーロッパの機能和声、そしてインドの因果応報の両方が、そのオリジンをインド・アリアンの民族に帰することになるのは、興味深い一致といつて良いでしょう。

日本に於ける音は、そのような感じがらめの因果の世界から離れて、永遠の時と一瞬に転ずる間（ま）、瞬間と言われる時に於ける変化を表現する「間」に対応する感性です。同じ東洋といつても、西から東に伝わった文化の流れが、日本というターミナルの地で、特別の存在になりました。

お釈迦様の涅槃・寂滅は本来の絶対無《ニルヴァーナ》としてよりも、日本的「静寂感」に、諸行無常も日本的「はかなさ」に、諦観が日本的「あきらめ」となつて日本独特の文化を形成しましたが、それと軌を一にするように、日本に於ける音の法則は、前述の機能和声とは根本的に異なつて、拍動の停止とその連続、そしてその中に起こる一瞬の出来事とその波紋、そして再び戻る静寂という「静」を基盤とする原理に基づいています、その典型的な例を俳句に見ることが出来ます。

芭蕉の名句「古池や蛙とびこむ水の音」は、この日本の音世界の特長を見事に顕すものとして敢えて、改めて紹介しましょう。

古池やⅡ完全な静寂

蛙とびこむⅡ一瞬の動

再び元の静寂の世界

この句が顯す絵画的見事さに、匹敵する、いやそれ以上に、音の世界を表現して、日本の音楽の原点を指し示しています。

一方、洋学のハーモニーが示す調和とは、どんなものでしょうか。

ハーモニー（和声）は、同時に複数の音を用いるので、輪切りにすると、そこには、幾つかの音が共存しています。そして、その複数の音が、程良く調和している様をハーモニーが良く機能している状態と言うことが出来ます。

弦楽四重奏を考えてみましょう。ヴァイオリン2本、ヴィオラ、チェロ、の4つの楽器の分担を説明します。

まず、一番大きな楽器チェロは、基礎、土台造り、で、全体構造の性格、機能を決定します。一番小さな楽器の第一ヴァイオリンは、花を咲かせ実を实らせ、音楽の顔、彩り、表札にもなります。第二ヴァイオリンは、女房役。第一ヴァイオリンに、ある時は寄り添い、ある時は、肩代わりしながら、音楽の立体感、陰影、つくりの担当、少し大きいヴィオラは、音楽のふくらみ、肉付け、密度、など内側の充実を主として担当します。

このように、それぞれが、自分のポジションを忠実に勤めることによって、全体としての機能が発揮される。

つまり、分業による役割分担で、総合的に機能的なバランスの良い組織体となつて、様々な音楽の表現が成り立ちます。

一方、日本の音楽は、一人の人間、一つの音の存在を大切に、そのこと自体に依存

してゆく。

日本の音は、一つ一つ、一人一人の固有の質を大事に、いかにその特長を保ち、育てていくか、に腐心します。他との相対関係でなく、絶対的な個の存在を求めていきます。その事によって、関係機能ではなくて、一個の存在そのものが問われてきます。

日本の伝統的宗教音楽である「声明（しょうみょう）」のようなタイプの音楽は、洋楽のような時間の区切りはありません。

時の流れを区切ることなく、何時までも続く一連の連続した時間として時を扱います。時とは、一点において停止することも可能であり、また、一瞬にして過去から未来に跳躍することも出来ます。

そのような時間を一つの単位に区切らず、有るがままの時の流れとして感ずるのが、日本流の時間のあり方です。

複数の数によって成立するのではなく、梵鐘のように、たった一個の音が、不滅の時を示すがごとく、嬾々として響きを残してゆきます。

梵鐘の余韻は、いつ終わるともなく、微少な響きをいつまでも続けていきます。それは、時間が停止したとも、言えますし、永遠の時を暗示しているとも観することが出来ます。

日本の音楽は、芭蕉の名句と梵鐘の響きによって、その本質を解き明かされるのです。

78

月 ◆表紙の言葉◆

能素描 融

とおる

時は仲秋の名月の夜、東国から上京した旅の僧が、六条河原院を見物していると、水桶を肩にした汐汲みの老人が現れ、この河原院こそ、ありし日の源融、風流大臣が陸奥の塩釜の景を移したところであるとのべる。三千人の人を使って、難波の浜から潮を汲んで運ばせ、邸内にしつらえた塩釜で焼かせてその烟の風雅を楽しんで居られたが、大臣が世を去られた後はそれを相続する人もなく、今は秋の月の下に静まっていると語る。

あたりは月光にぬれたような京の風景。老人は懐旧の涙を流す。やがてあたりの名所を旅僧に教えたあと、潮を汲むが、いつしかその姿は見えなくなってしまう。

その夜の旅僧の夢に融の大臣が在りし日の貴公子の姿で現われ、昔の日の華やかな舞を月光の下で優美に舞い、夜のしらじら明ける頃、月の都へと去って行く。

表紙画と文

鈴木奈緒

プロフィール 1947年 三岸節子先生に師事
 1950年 女流画家協会展 H 婦人賞受賞
 1983年 秋耕会展 女流会長賞受賞
 1994年 秋耕会展 文部大臣賞受賞
 個展23回開催

羽田恵三

総本山知恩院布教師会副会長

お施餓鬼
お盆法話

「夏たけて、堀の蓮の花見つ」

仏の教え思う朝かな」

これは昭和天皇様が、ご崩御の前年にお遺し下さった御製であります。

陛下は、お歌の道に大変ご熱心であられましたから、年ごとに沢山のお歌をお残しではありますが、ご崩御の前年には、わずか三首のご発表しかありません。そのひとつがこのお歌であります。

身は苦しい闘病の日暮しにありながらも心はすでに弥陀の浄土にお預けになっておられることが頂けて参ります。

「もう間もなくこの世をおいとまして行かなければならないが、やがて生まれさせていただく極楽浄土にも、このような清々しい蓮の花がたくさん咲き乱れていることでありましょう。」

なんとも爽やかなお歌であります。

親しいお方、大事なお方とのお別れはつらい悲しいことでもあります。最後のお見送りを

する時などは、「どうぞ善いところへお生まれ下さい。」と願わずにはおれません。

そのお方々が生まれてくださり、またこの私を待っていてくださる浄土があればこそ、残る私の心がやがて癒され、また私もその国めざして生きるから、目の前の苦しみ悩みが乗り越えられていくのであります。

その目的を持てるお方は、今日の生き方が大きく違ってまいります。同じ苦しみ悩みを受けても、受け取り方が変わってくるのであります。

「坂三里 辛さが楽し里帰り

若葉のあなた 桃の咲く家」

理由なく登る坂三里は辛く苦しいことではありますが、実家をめざしての坂道三里は、喜びの心で越せて行けましょう。

ところがであります。その目指す所に、大事な懐かしいお母さんが居られないとなつたら如何でありましょう。それは辛い悲しいことでしょうね。

そんな辛い悲しい経験をなさったお方が、お釈迦様の十大弟子のおひとり、目連尊者であります。

目連さまは、神通第一と言われたお方ですが、その神通力で、いまは亡きお母さまにご恩返しをしたいと願われたのであります。まずは極楽浄土の隅々まで探しに探されたのでありますが、どこにも母の姿は見あたりません。仕方なくほかを探してみますと、なんと餓鬼道の世界に、あの美しかった母の面影はなく、あわれな餓鬼の姿となつて苦しんでおられたのであります。

「十億の人に 十億の母あるも

我が母に勝れる母あらめやも」
十億の人に、それぞれ十億のお母さんがありますが、その中で最もやさしい、もつともすばらしいお母さんを探すとしたら、この私を生んでくださったお母さん、この私を育ててくださったお母さん、それ以外にはけつしでないはずであります。

そのお母さんが、あろうことか餓鬼の姿になつて苦しんでいらつしやる。目連さまの悲しみはいかばかりだったでしょう。

目連さまはもうじつとはしておれなかつた。さつそく大きな鉢にご飯とお水を盛つてお母さんのもとを訪ね、「どうぞお召し上がりください。」と差し出されたのであります。お母さんはご飯を口へはこばれましたが、食べようとなさると火となつて食べることができない。水を飲もうとなさると、これまた炎となつて飲むことができない。「食べることもできない、飲むこともできない。」これがあの餓鬼道の苦しみであります。

いかに神通第一の目連さまの力をもつても、餓鬼道の母を救い出すことはできなかった。悲しく思われた目連さまは、お師匠様であるお釈迦さまのもとへお出でになり、「どうしてあんなに優しかった母が、餓鬼道へ墜ちなければならなかったのでしょうか。また、あの母を救い出すてだてはないもの

でしようか。」とすがる思いで教えを請われたのであります。

「よいか！、目連よく聴けよ。お前の母は、お前には優しいすばらしい母であつただろう。しかしあの人は、貪りの心が強く、その罪根は甚だ深いものがあつた。世の母にありがちなことであるが、我が子可愛さのあまり、他の人に施しのできない悲しい心があつた。お前が托鉢に行つたとき、鉢にあまる施しをしてくれたあの母が、他の誰が行つてもなにひとつ施しをしてはくれなかつた。そんな悲しい業の報いによつて、いま餓鬼道の苦しみを受けておられる。だからいかにお前に力があるうとも、お前一人の力では、あの母を救い出すことはできない。」とお答えになり、そのときお釈迦様は目連さまに、お母さんを救い出す方法をお説きになられました。そのお経が、『盂蘭盆経』であります。その中に、

「七月十五日という日は、僧自恣の日といわ

れ、安居（三ヶ月の雨季間、僧が一処に集まつて静かに修養すること）が明ける日。心が清浄に清められ、悦びに満ち溢れておられるすばらしい日である。そのお坊さん方を招き、また諸々の仏様に、海山の珍味を供養して、一座の法会を営んでもらいなさい。その功德によつてお母さんは勿論のこと、七世に及ぶご先祖までも、尊い法悦を受けることができる。」と説かれたのであります。

そこで目連さまは、お釈迦様の教えの通りに法会を営み、お母さんをはじめ、七世の父母に対し報恩追善の誠を表され、多くの方々をウランパーヌ（倒懸苦・逆さ吊りされるほどの苦しみ）から救われたのであります。

これが七月十三日から十五日まで（地方によつては八月）、各家庭に精霊棚を設けて、多くのご先祖をお迎えし、報恩感謝のまことをささげるゆかしい習いであります「み魂まつり」。「盂蘭盆会」の始まりであります。

またその頃に寺院では、「お施餓鬼」とい

う法要がつとまりますが、これも同じく十大弟子のひとり、阿難尊者にまつわる法会であります。

『救拔焰口陀羅尼經』によりますと、阿難さまがおひとりで瞑想修行なさっている時、見るからに恐ろしい相をして、口から火を吐く餓鬼が現れ、阿難さまに申すには、「汝は三日の後に命が尽きて、餓鬼に生まれるであろう」と。

これを聞かれた阿難さまは恐れおののかれ、「どうすればその苦から逃れることができるか」と尋ねられたのであります。

その餓鬼は、

「汝、もし一切の餓鬼に飲食を施し、我がために三宝を供養すれば、汝も福寿を得、多くの餓鬼も苦しみから逃れ、われもまた餓鬼の苦を免れて天に生ずることができる」と告げたのであります。

そこで阿難さまは、お釈迦様のもとへ行き、その旨を告げて教えを請われました。すると

お釈迦さまは、

「われ昔、觀世音菩薩より、無量威徳自在光明の陀羅尼を頂いた。一食を設けて、この陀羅尼を七遍加持すれば、それは無量の飲食となり、一切の餓鬼は無量の飲食を得て、その苦を逃れ天に生じ福德寿命増長す。」と教えられたのであります。

そのみ教えによつて「お施餓鬼」の法要には、その尊い陀羅尼を称えて供養致します。少飲食が變じて、餓鬼はことごとく飽満し天に生ずることができるのであります。

この「お施餓鬼」を営むことによつて大きな功德を受け、現前の精霊も、速やかに生死を離れ、浄土に生まれることができることとされているのであります。先祖の冥福を祈つて、平素にも営まれることもありませんが、特にこの「お盆」の前後に営まれることが多いのであります。

「今日あるは 先祖のおかげ 魂まつり」

この二つの行事をとおして、今日ある「我

が姿」の、本当の意味をかみしめたいものがあります。

いずれに致しましても、「我が父が、我が母が餓鬼道に」などとは思ってもよらないことでありますが『父母恩重経』の中には、「為造悪業の恩」とあり、「親という親は、可愛我が子の為には、罪まで造って育てあげてくださる」と説かれています。

「悪いとは、知りつつ手折るよその花

背負う我が子に罪重くなる。」

可愛い我が子さえ、おんぶしてなかつたら、よその花など折ったりはしないのです。でも背中の子に、あの花を持たせたらどんなに喜ぶだろうかと思つたら、悪いことだとは知りながらも、よその花でも折り取つてしまふ。これが親の心、母の心と歌われたのであります。

これは、育てを受けた子供が心しなければならぬ恩でありましょう。またここまで知って始めて親の恩を知ったということにな

るとも説かれています。

そんな『私』の、今日ある本当の姿に気づかせていただいたなら、するのではない、せずにはおれない「み魂まつり」の、尊い行事となつてくるのではないでしょうか。

またそのことを、ご先祖様が、親さまがどれほどお喜びくださることでございましょうか。またどれほど待ち望んで下さったことであらうでしょうか。

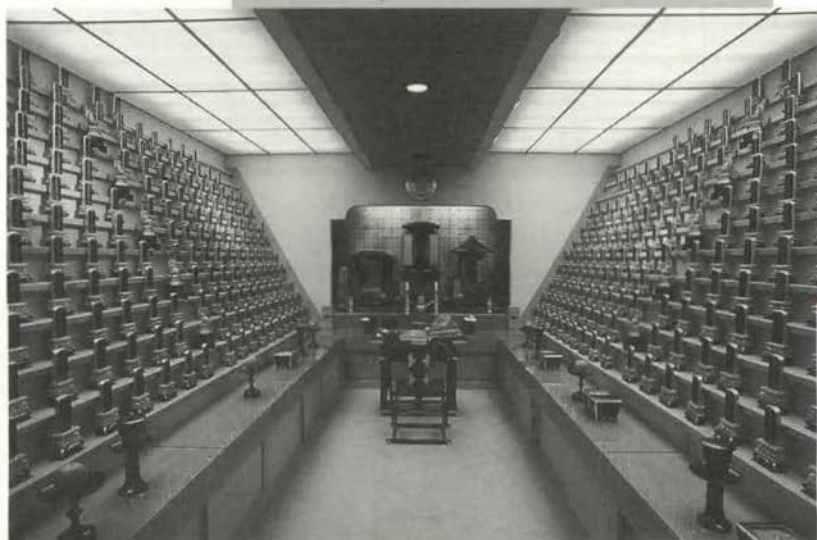
そしてその親さまが、ご先祖さまが、阿弥陀如来さまが待つていてくださる極楽浄土を目指して、日々は、み仏さまとの共暮らしを願つて、法然上人さまは、私たちに「南無阿彌陀仏」のお念仏をお勧め下さったのであります。

寺院紀行

千住

勝専寺

撮影／タカオ力邦彦
文／真山 剛



本堂裏の位牌堂。檀信徒の位牌がきれいに並び、
正面には千住観音像、鰐大明神像、開山上人像が並ぶ。

「坊さんにもいろいろな生き方がある。学問に打ち込む生き方、布教に専心する生き方、そして地域とつながる生き方。私は三番目の地域とつながる坊さん。そしてこの勝専寺はここ千住の寺です。」三宮神山大鷲院勝専寺、第三十三世水野了雅住職は明確にこう言い切る。めがねの奥の一見厳しい眼差しに、少々たじろぎ気味に始まったインタビュも半ばを過ぎた頃だった。

通称、赤門寺と呼ばれるこの勝専寺は東京都足立区北千住駅から徒歩五分。旧日光街道からの参道正面に、堂々たる赤門を今に残す、東京きつての由緒と歴史がそろうた寺院である。

この勝専寺の歴史を繙くと、興味深い時代が二つある。一つは創建当時、そしてもう一つは江戸時代の宿場町として栄えた頃である。まずは開山の歴史から繙いてみよう。

創建は文応元年、一二六〇年というから浄土宗を開宗した法然上人が亡くなって五十年と経たない鎌倉時代。開山は父の追善の為に法然上人に帰依した勝蓮社専阿上人。

この専阿上人が出家するきっかけとなった父は、法然上人の教えに帰依し、念仏をしながら戦場で往生した甘粕太郎忠綱で、法然上人絵伝にその往生の様子が書きしるされている。有名な熊谷直実をはじめとする念仏信者となった鎌倉武士の一人なのである。

この父の死に遭い、三男だった後の開山上人は武士の道を捨て、



北千住駅。JR線と営団地下鉄の二路線が乗り入れている。

出家を志す。そして京都の法然上人のもとに向かったのが十三歳の時。そこで専阿宗公と名のり、ひたすら修行に励む。時に鎌倉幕府が開かれた一九二二年のことである。

一二二二年に法然上人が往生してからは、その弟子の弁阿上人のもとで念仏に励むことになる。そしておよそ五十年、源頼朝に仕えた新井政次が現在の千住の地に塾居、その政次がたまたま荒川で網にかかった千住観音像を安置し一寺建立を志す。そこに招いたのが、この関東の地に縁ある専阿宗公上人だった。時に上人八十二歳。創建当時は常行院といったが、この名はおそらく上人の念仏が常に響き渡っていたことにちなんでいるに違いない。

以来二十余年、弘安六年（一二八三）三月八日の往生まで、専阿宗公上人が法灯を守り続けることとなる。上人の往生は百五歳というから、当時では長生きも長生き、確かに釈尊、法然上人の八十歳、親鸞聖人の九十歳と高僧の長命は珍しくないが、それこそ念仏に支えられた上人の、日々の規則正しい生活のなせるたまものだろう。

寺名が変わった年代は寺伝等に見当たらないが、開山上人の勝蓮社専阿から二文字とつて勝専寺と寺名を変え、関東武士たちの手によつて発展してきたことは想像に難くない。その間の経緯はともかく、法然上人から直接教えを受けられた上人が開山された寺院が、この関東の地に残っていることはまさに驚きで、その歴史は今年で



開山の勝蓮社専阿上人像。上人は法然上人に直接帰依している。

なんと七百四十二年、浄土宗の歴史とそう違わない、まさに「名刹」という形容が似合う古刹」である。

さて、この勝専寺に新たな歴史が加えられるのが、江戸時代である。宿場町となる千住の赤門寺としての新しい一頁だ。

品川、新宿、板橋、千住、今も残るこの地はかつての江戸四宿、つまり五街道から江戸へ出入りする最初の宿場町として栄えた町である。関西から遷都された関東の中心はもちろん江戸城。そこから西へ、そして北へと街道が延びるのだが、千住は日光街道と奥州街道に向かう最初の宿場町となった。

江戸城からの距離はさほど遠くはないものの、江戸から行くと千住の宿の手前に、北から江戸に向かうと千住の宿の先に難所が待ちかまえていたのである。当時の荒川、そう今の隅田川だ。

今でこそ護岸されている隅田川だが、当時はその名を荒れる川から荒川といい、千住大橋は三度目にしてようやく架かった、江戸幕府と江戸庶民の念願の橋だったのである。

その千住大橋が架けられたのは文禄三年（一五九四）、その四年後に千住は人馬の継立場の指定となり大きく変化していく。そして寛永二年（一六二五）に日光東照宮の造営とともに宿駅制が改正され、千住村は日光街道の初宿として飛躍的な発展を遂げることになる。東を照らす大権現、徳川家康の墓のある日光参りは二代三代将



旧日光街道の商店街に立つ千住宿本陣跡の碑。

軍はもちろん、諸大名にも欠かすことのできない行事である。さらに奥州からの参勤交代もこの街道を通り、ここに宿をとる。

こうした中で千住が発展しないわけがない。いまでも当時の日光街道が道幅を変えずに商店街として残っている。道を改めて資料調べに足立区の図書館に行ったのだが、旧日光街道には本陣跡の碑や古い屋敷、そして当時を忍ばせる団子屋や佃煮屋が並んでいる。また街道沿いには一定間隔で細い路地も残っている。今は皇居となつたかつての江戸城前の大手町駅から地下鉄に乗ると十六分という近さだが、街道の歴史が漂う魅力溢れる町である。

では、この時代の勝専寺の歴史に目を向けよう。赤門寺と呼ばれる勝専寺だが、この赤門とはいわば徳川家お墨付き寺院だけの特権の証であつた。二代將軍秀忠が鷹狩りの休憩所にしたことをきっかけに三代將軍、四代將軍との深い関わりを持つこととなつた勝専寺は赤門の建立を許され、赤門寺としてその名を轟かせた。

何も轟かせたのは赤門ばかりではない。今も立派な鐘楼が境内に聳える勝専寺だが、江戸時代から時の鐘として近郷近在の人々に親しまれてきた。残念ながら、新しい住民からの要望で朝六時と夕六時の鐘は鳴り響かなくなつてしまつたが、まさに地域の時刻番の役割を果たし続けてきた。

またお閻魔さまも有名で、正月と七月の十五、十六日の両日は、



勝専寺境内。左手に本堂、正面が客殿と庫裏。

境内はもちろん参道や商店街にも露天が並び、多くの人が今でも訪れている。この閻魔さまの縁日、十一代將軍の頃から始まったというから二百年は悠に越している。しかし一方で、今は無くなってしまう千住の勝専寺ならではの行事もあった。

長旅を終え、さあ明日は大橋を渡り大川(隅田川)越え、いよいよ江戸城内という晩を迎える千住では、武士も商人も装束を改める。長旅で汗の染み込んだ着物や使い込んだ道具類を千住に残していく。使い込んでも着物は今の洋服と違い、どうにでも着回しができる。こうした旅人の装束や着物で、市がたち始める。これをポロ市といい、勝専寺のポロ市といえは有名だった。最盛期は昭和のはじめで、その頃は衣類どころか何でも並び、花嫁道具も一式揃ったというから、その盛況ぶりは言わずもがなである。

こうした時の鐘、閻魔さま、ポロ市と千住の歴史をつづる資料には必ず出てくる項目はすべて勝専寺あつてのものだが、勝専寺を彩る話はまだまだ尽きない。

朱塗りの薬医門形式の赤門に大きな扁額がかかっている。山号の三宮神山と大きく記されているが、これは江戸後期から明治にかけて一世を風靡した菱湖流の巻菱潭によるもので、この三つの神とは稲荷、毘沙門天、鷲大明神のことである。いずれの像も寺宝として残っているが、中でも家光公寄進の鷲大明神は、大鷲にお釈迦さま



時の鐘として時を知らせてきた鐘楼。

が乗っている小さな仏像だが、この大明神を祀る勝専寺で二の酉が行われていた。ちなみに一の酉は花畑の大酉神社、三の酉が浅草の鷲神社だ。

また本堂は明治三十九年に建立された赤煉瓦作りのモダンな建物だ。今でこそモダンと言えるが、当時赤煉瓦といえは刑務所の塀で使われることが多く、少々物議をかもしたそうだ。本堂入り口の両側の柱の上に祀ってある観音像と地藏像はもともとは旧日光街道に面する参道脇に立っていて、勝専寺の入り口を守っていたという。この二体の宙に浮くような仏像もなかなか見応えがある。

地元と密着している寺院ではよくあることだが、地域の教育の中心にお寺がなることが多い。千寿小学校もこの勝専寺境内に創られている。さらに本堂すぐ裏には、境内の一部を貸している潤徳学園の校舎が迫って立っている。大正十三年に創立されたこの女子校は、地域の教育は地元でという地域の有志によって設立された私立学校で、駅をはさんで反対側に昭和四年に設立された男子校、足立学園も同じ趣旨で建てられている。その成り立ちから潤徳学園は私学ながら理事長はかならず地元住民から選ばれ、足立学園も理事長は公選となっている。

地元のことは地元で、というこの姿勢は北千住の商店街にも言える。決して大きくはないが、老舗が軒を並べ旧日光街道の面影を残



かつては街道からの参道入り口に立っていた観音像と地藏像。今は本堂正面の柱の上に立っている。

すまっすぐに伸びる商店街は、エリアごとに商店街の名前が変わりながら町の中心をなしている。いわゆるスーパーマーケットがない訳ではないが、その規模は小さめで、地元の買い物は地元の商店街でというのが、駅を降りれば自然と伝わってくる。

こうした商店街や町会、または水野住職が会長を務めている足立区佛教会などの会合には、もっぱら勝専寺が使われる。祭りの御輿も境内から練り出していく。

少し笑いながら「玄関ホールの上にある部屋は寺の行事で使ったことがあります。地域の会議室ですね。」水野住職はこう言い、六年前に落慶した客殿を案内してくれた。出入りの業者の使いやすさを考慮した台所、ホテルを思わせるような広い玄関ホール、そして住職自らが水まわりを整えた中庭。設計に三年、工事に三年という時間をかけた客殿は庫裏との堺を完全に区切っており、来寺いだいた方々が何の気兼ねもなく自由に使える空間になっている。まさに地元の寺を標榜するのにふさわしい作りなのである。

地域とのつながりを第一にする水野住職の肩書きは数知れない。地元のような会や団体の役職に就かれているからだ。寺院がかつては地域の中心となっていたとはよく言われるが、それを実践し、地元の様々な活動拠点となる勝専寺住職の肩書きこそ、この古刹の伝統が今という時代に形を変えた新しい息吹に違いない。(ルポライター)



赤門と煉瓦塙。煉瓦は陶器メーカーや大学の研究室が調べに来るほど、貴重なものだそう。

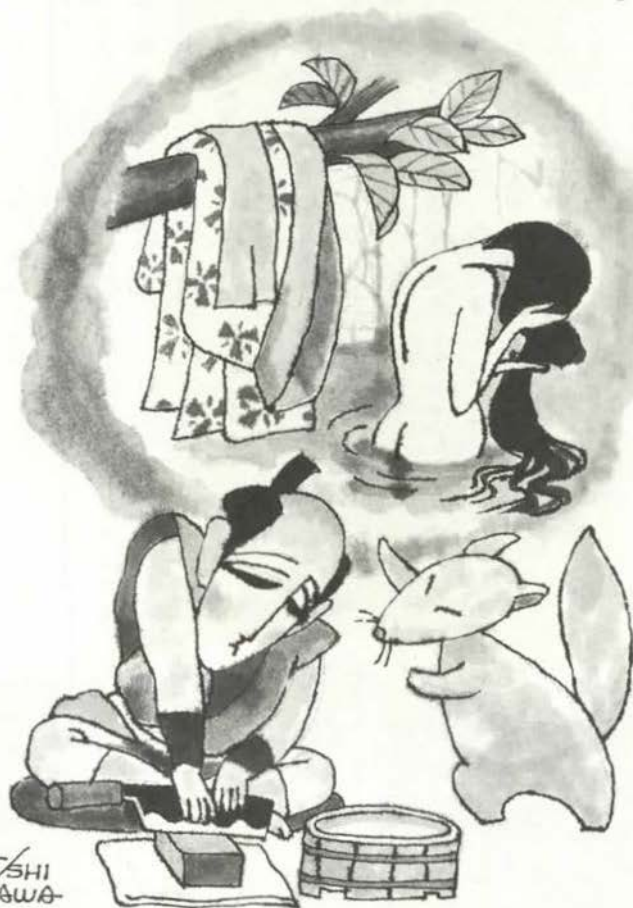
民話

をたずねて

連載

石崎敬子

たなばた 女房



T/SHI
KAWA

昔、ある山の村に、小五郎という若者が住んでおったと。ある日のこと、怪我をした狐が、小五郎の小屋に飛び込んで来たど。小五郎は狐を可哀想に思い、手当をし、逃がしてやったど。

それから何日かして、また狐がやって来たど。

「小五郎さん、この間は助かりました。お礼に嫁さんをお世話したいがどうじやろう。明日、谷川に天から娘が水浴びに来る。脱いだ緋の衣を取ってきて、隠しなされ」

狐はそれだけ告げると、さっさと走り去ってしまったど。

あくる日、小五郎は谷川の方へ行ってみたと。すると狐のいったとおり、娘が水浴びをしておった。小五郎は、足音を忍ばせ近寄ると、木の枝に掛けてあった緋の衣を持ち帰り、小屋の裏の柱の穴の中へ隠しておいたど。

その日の暮れ方、ほとほと戸を叩く音がしたど。小五郎が戸を開けてみると、そこには輝くように美しい娘が立っておったど。

「私は天の者です。大切な緋の衣をなくしてしまい、天に戻る事ができません。どうかここにおいてくだされ」

娘を一目見るなり氣に入った小五郎は、その日から一緒に住むことにしたと。いつしか娘は女房となり、やがて、子どももできたと。けれど、女房には一つだけ氣になることがあったと。それは小五郎の癖であったと。小五郎は毎朝、起きると必ず小屋の裏へ行き、ばんばんと手を打っては、なにやら唱えごとをしておったと。

怪しんだ女房は、ある朝、小五郎が山仕事に出かけた後、小屋の裏へ行き、あたりを探ってみた。すると、柱に穴がある。中を覗いてみると、なんと、そこには緋の衣があったと。衣を取り出した女房は、我が子と二人で身にまとい、そのまま天へ昇っていったと。夕方、小五郎が戻ってみると、女房も子どもの姿がない。隠してあった衣もない。それからというもの、小五郎は天に戻った女房が恋し、子どもが恋しと毎日泣いておったと。

しばらくたったある日のこと、以前助けた狐がまたやってきたと。「天へ昇るのは、それ程むづかしいことはありません。鳥の羽で衣をこしらえたら、わしが空へ吹き上げてしんぜましょう」

小五郎はさっそく鳥の羽で衣を作って身にまとい、狐に吹き上げ

てもろうたと。天に昇ると、そこには井戸があつたと。井戸の横には枝一杯に実をつけた桃の木があつたと。小五郎は、枝に取りつき桃の実を食べておつたと。そのとき、小さい子どもが走り出て、井戸の水鏡に映つた小五郎を見つけたと。

「トトさまじやあ」

すると、その声をききつけ、女房が現れたと。

「よう来てくださつた。ここへは何人もの婿が来たけれど、母神さまが邪険なばかりに、みな帰つてしまいました。おまえさんだけは、いつまでもおつてくだされ」

その日から小五郎は天で暮らすことになつたと。親子三人の暮らしは楽しかったが、母神さまは小五郎には厳しかったと。

ある日、母神さまが小五郎に仕事を言いつけたと。

「明日は粟二俵半を馬につけて、畑一面にはうり播きしてください」
小五郎が明日の仕事を案じておると、女房がそつと教えたと。

「二俵半の粟は播かずに、畑の隅へ埋めておきなされ」

あくる日、小五郎は山の畑へ二俵半の粟を運ぶと、畑の隅に埋め



T/SHI
KAWA

ておいて、日暮れを待ち、何食わぬ顔で戻ってきたと。母神さまは、また口惜しがり、次の仕事を言いつけたと。

「今日、山の畑に播いた粟の種を、明日一粒残さず拾うてきなこれ」けれども今度は小五郎も平気であつたと。あくる日、二俵半の粟の種を掘り出すと、馬につけ、ゆつくり休んでから戻ってきたと。これにはさすがの母神さまも感心し、ほめこぼしたと。

「さて、小五郎よ、今度の仕事で最後じゃ。瓜畑の瓜がカラスに食われて困っておる。明日は瓜畑の守り番に行つてくだされ」

簡単なことじゃと喜んでおる小五郎に、女房は、何べんも言い聞

古き伝統技

三代にわたる信頼

浄土宗法衣専門

有限会社

古島法衣店

〒111 東京都台東区元浅草4の2の1

電話(03)38421289

振替0018012145231

かせたと。

「私が弁当を持って行くまでは、どれほど喉が渴いても、瓜には手をつけないでくだされ」

あくる日、瓜畑で守り番をしておると、どうしたことか急に喉が渴きだしたと。昨夜の女房の言葉を思い出し、小五郎は我慢したと。ところが、いくら待っても女房は現れん。小五郎は辛抱ができなくなり、一つなら良からうと、瓜一つをもちで二つに割ってみたところ、その瓜は雨壺であつたから、たまらん。女房が駆けつけてきた時には、瓜の水は辺り一面にあふれ、川となって流れ出し、その川中で小五郎は流されまいと懸命にこらえておるところであつたと。それを見た女房は急いで走り帰り、七桶半の麻を積み、短冊のついた竹に結わえて流したと。けれども小五郎の手には届かず、そこで女房は声をかぎりに叫んだと。

「月の七日には、きつと会いましょうぞ」

ところが、小五郎はそれを七月の七日と聞き違え、それから二人は一年のうちで、七月七日だけしか会えんようになったと。

つらい食事制限、無理な運動もなし!! よかった!血糖値が下がったよ!

飲むだけで血糖値が下がるゴールド甘減茶って何だ!?

「お茶で治るなんてビックリ!」と語る皆さん



「4年前に心筋梗塞を患い、退院はしたものです。その後合併症で血糖値が200もあり、翌年の4月にはとうとう病院の先生に入院するようになった。偶然見た新聞にゴールド甘減茶の記事が載っていたので、2缶取り寄せて、1週間飲んだ頃、とても調子が良いので病院で検査をしてみると、血糖値が99に下がったんです。それは驚きましたよ」

それ以来根本さんは、齋藤さんをはじめ

「近所の人に紹介しているといふ。とにかくこの嬉しさを糖尿で苦しんでいる人に伝えてあげよう」と近所の人に話をする、皆さん必ず欲しいと答えるんです」

同じく近所に住む星野スギさん(69歳)は、もと血圧が高く、中性脂肪とコレステロールが高かったが、甘減茶を紹介されてから、血糖値が下がり、血圧も中性脂肪も正常になり、大変驚いている。

根本さんか茶の輪は、ますます広がっていきそうです。

ゴールド甘減茶成分



効果の秘密は新芽3枚と絶妙な配合バランス!

ゴールド甘減茶の葉は、栽培物ではない自生した樹木の葉。その中でも一番栄養価が高く効果のある新芽の3枚目までを厳選して使用しています。さらにそれぞれの葉が最も効果を出すために必要な、配合バランスには細心の注意を払っています。それは5種類の茶葉それぞれの分量が多すぎても少なすぎてもだめで、現在の配合バランスが最も相乗効果を発揮するからです。

たいへん!糖尿病で入院寸前!

栃木県に住む齋藤信雄さん(67歳)は、3年前の5月、健康診断で糖尿と診断された。「たまたま健康診断をしたらなんと血糖値が200もあり、先生から「今度来る時は入院の用意を」と言われました」

そんな時、近所の米屋の根本勝さん(72歳)が配達にきたところ、齋藤さんの奥さんが相談を持ちかけた。「うちのお父さんが糖尿で入院だと言われて困っているんだよって言ったら、甘減茶というお茶を1缶

どんどん広がる甘減茶の輪!

まさに齋藤さんの命の恩人である根本勝さんも実は糖尿で苦い経験をしていたのだ。

「病院の先生も、これなら入院をしなくても大丈夫と言ったそうだな」

「正直、ホッとしましたよ。家が山の中なので病院まで1時間半もかかるんです。それを思うと本当に甘減茶には救われました」

夏は冷やしてもOK!

※ティーバッグ1袋を2リットルの水で煮出して飲むだけ。

商品のお申し込みについて (大郡からのお知らせ)

1缶販売価格 **10,000円** (税別) ●ティーバッグ5g×30個入り(約1か月分)
※送料は数量にかかわらず全国一律500円。

まとめて買えばお得です。 **3缶以上のご購入は10%割引!**

ご注文は電話かバガキがFAXで

0120-778-738
受付時間:午前8時～午後9時(年中無休)
FAX 03-5251-1552
(24時間受付)

インターネットでもお申し込みになります。
<http://www.kwangencha.com/>

●商品は1週間前までお受けいたします。●代金は商品到着後2週間以内に郵便振替でお支払いください。ただし3日以上お支払いの滞りは代金引当でお支払いいたします。●商品は商品到着後8日以内に。ただし送料がお客様で負担。開封後の商品はご返金いたしません。

商品名・数量	〒105-0003	○商品名・数量
○テラソ (テラソ)	大 都 南 東	○テラソ (テラソ)
○お名前 (フリガナ)	都 市 西 京	○お名前 (フリガナ)
○生年月日	都 市 西 京	○生年月日
○お電話番号	都 市 西 京	○お電話番号
○ご希望の送料	都 市 西 京	○ご希望の送料

健康に人生を送る

十力条・長田流

2. 調味料や加工食品から食品添加物を徹底排除
(薬禍薬害を意識する)

わたしが食品添加物に関心を抱いたのが昭和四一年です。ある朝NHKテレビが「ズルチンによる老人の死」をテーマに食品添加物を取りあげ、それから短期間に「だいだい〇号」「緑色〇号」などの添加色素禁止の新聞報道に接したことがきっかけでした。禁止の理由が「発ガン性によるもの」であったことが興味の対象となりました。

それからというもの食品添加物や薬に関する本を読み漁りました。そのなかで昭和四三年「恐るべき加工食品」(郡司篤孝著)に出会い、さらに数年後「薬この危険な副作用」(高橋暁正・平沢正夫共著)

(財)自然農法国際研究開発センター 研究員

長田英樹



で薬が毒であることを確信しました。

郡司、高橋両氏を相次いで講師としてお招きしたのが四六年、四七年でした。特に郡司氏が三百集をこえる「先天障害」の写真を見せて「その原因が食品添加物にある」と断じたことをきのうのことのように覚えています。

その講演のなかで「AF2」という保存料(防腐剤)について「七月に東京でつくられた豆腐が十月に北海道で売られていた」とあったことには度肝をぬかれました。それから数年後にはこのAF2も禁止になりましたので厚生行政に疑問を抱いたものです。

現代の食生活のなかで食品添加物を百%排除する

ことは不可能です。わたしが興味を抱くようになってからの三六年間、許可されては消えてゆく繰り返しのなかで、化学物質である食品添加物が常に三百四〇種類認知されているからです。スーパーやデパート、コンビニの食品売り場に並んでいる加工食品の袋には、小さな文字で覚えきれないほどの添加物名が印刷されています。添加物表示が義務づけられたおかげで、消費者が内容物を知ることができるようになったことは評価できますが、おどろきがつるばかりです。

こうした社会情勢のなかで、はたして自然食の徹底などできるのでしょうか。

わたしは二年前まで自然食品の販売会社役員として営業を担当し、パーフェクトな自然食品を扱うべく努力してきました。なかでも基礎調味料である味噌、醤油は原材料のすべてを国内産自然農法のものとし、それを二年間熟成させた本醸造。塩は海水から生産されたものという徹底ぶりでした。そのほか砂糖、油にもこだわりました。この調味料に米と野菜を自然農法産のものにできれば半分以上自然食と

なります。

あとは加工食品です。わたしはほとんど買いません。それでもまれにビニール袋に入ったものをちゅうだいすることがありますが、袋に記述された添加物を確認して、食べるべきか捨てるべきかで迷います。貧しく育っておりますので食べものを捨てることに抵抗があります。かといってよそさまにさしあげるのも気が引けます。食べる罪と捨てる罪、どちらが重いのだろうと熟慮をかさねてしまします。

手元に「41歳寿命説」（西丸震哉著）があります。

この本を初めて手にしたのは一〇年前前ですが、まえがきに「昭和三四（一九五九年）以降に生まれた日本人だけで構成される社会になったとき、日本人の平均寿命は四一歳になる」とありました。その要因として過食をふくめた食環境の変化と食品添加物に言及しています。わたしとは意見を異にする部分が多いのですが、大胆な説を主張した著者に敬意を表し参考にしております。

我が寺の活力剤“吉水講”

昭和五十一年秋に行われた詠唱講習会が、当教区内において実施された初めての研修会だったように思います。講師には、水野賢正師を招請して、教師・寺庭合同の講習であったことを思い出します。

それまでは、拙寺を初め何処の寺院でも大和流や密言流などの真言系詠歌で巡礼なども消化していました。

早速、五十二年春には講員を募り、約三十名ほどの人数で吉水講を発足させました。確かに教本も未だ出廻ってない頃であり、講習会時の資料をコピーして行っていた気がします。

当然ながら、当初は鈴証も持たず、あの独



地蔵尊前での詠唱奉納

山形中組
誓願寺

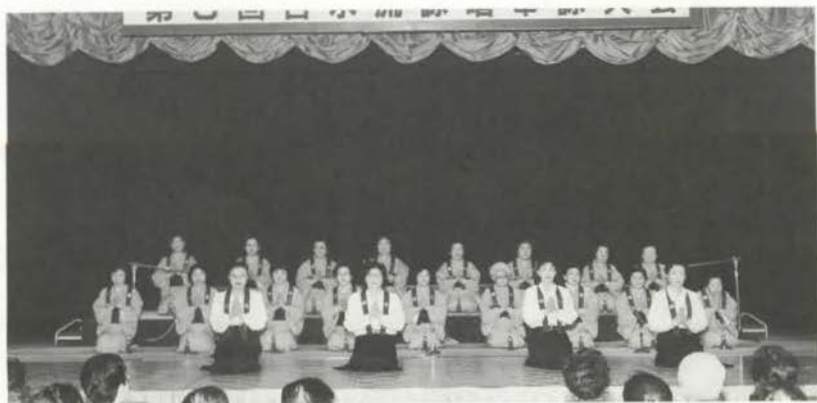
特な譜面で調子取りから行いました。

そんななかで、寺院同志、いわゆる教える側も互いに練習会をもつようになり、三名・五名と増^ましていったようです。皆んな、無級者でしたから、同好会の雰囲気でも進^まっていました。暫くして、“検定合格”の寺庭が次々とあらわれ、同好会のなかからも序々に吉水講を旗挙げする寺院が出てきますと流れに勢いがついたようになっていったことを覚えております。

拙寺においては、同五十六年の十二月に近くの松念寺吉水講員とで、五級の検定を行ったことがあります。級を与^よすること自体に躊躇もあつたのですが、講員の更なる練行の励みにと当寺を会場に行つたのでした。

講師と審査員には、故、鈴木錦承師が当られ、七十二名の方が合格して、まずは初期の目標を達成することが出来たかなと安堵したものです。

また、愈々果敢に取り組んでいったのもこ



教区詠唱大会への出場の様子

の頃と、今では懐かしんでおります。それは、近郷の札所詣りであり、名所めぐりであり、その背後には必ず吉水講員がありました。

年二回の法要を詠歌や和讃で盛りたててくれたのも講員です。お陰で法要は凛々漂うなか成満することが出来ています。

共に励んできた講員が亡くなると、葬儀に参列して詠歌でお送りしたいという声が誰れ彼れとなく湧き出て、今では導師も“自然法爾”を決め込んでいます。

毎月二回の練習が功を奏したもののか、平成元年の進級には、全員が三級に到達でき、益々結束が強まっていったようです。現在八十二才を頂点に三十代の主婦まで、総勢四十七名で頑張っております。

(了)



寺院便り、次回は焼津・光心寺

故・鈴木錦承師による講讃風景

暑中御見舞申しあげます

平成十四年

浄土門主
総本山知恩院門跡第八十六世

中村康隆

大本山増上寺
法主

成田有恒

大本山金戒光明寺
法主

坪井俊映

大本山百萬遍知恩寺
法主

大野忍敬

大本山清浄華院
法主

大田秀三

大本山善導寺
法主

阿川文正

大本山光明寺
法主

宮林昭彦

大本山善光寺大本願
法主

鷹司誓玉

暑中御見舞申しあげます

平成十四年

浄土宗宗務総長

水谷 幸正

大本山増上寺執事長

江口 定信

〒106-0001 港区芝公園四―七―三五

浄土宗東京事務所長

袖山 榮貞

〒300-0806 長野市西後町一五六八 十念寺

〒154-0017 世田谷区世田谷四―七―九

大吉寺

住職 成田昌憲

平成大事業勸募懇請中(九月迄)
御影堂屋根替大修理完成
阿弥陀堂新築再建着工

美作 誕生寺

〒709-0802 岡山県久米郡南町里方八〇八
TEL 〇八六七 (二八) 二二〇二
FAX 〇八六七 (二八) 二二六二

〒112-0002 東京都文京区小石川三丁目
十四番六号

無量山 傳通院

TEL 〇三 (三八一四) 三七〇一 (代表)

定義如来

西方寺

〒989-0212 仙台市青葉区大倉字上下一
電話 〇一一一 (三三九) 一一〇一一
HomePage: <http://www.johgri.or.jp/>
E-mail: saihouji@johgri.or.jp

暑中御見舞申しあげます

平成十四年

清水湊 貝付毘沙門天

忠高山 實相寺

〒430-0808 静岡市鷹匠二丁目二十四番十八号

玉桂山 華陽院

電話 〇五四 (二五二) 三六七三
FAX 〇五四 (二五二) 三六五六

(学)大乘淑徳学園理事長
淑徳大学学長

長谷川匡俊

〒174-0666 東京都板橋区前野町五十一番一十二

淑徳学園中学校・高等学校
校長

大谷 壽雄

総本山知恩院
おてつき運動 推進部長

東海林 良雲

塩釜市雲上寺

浄土宗大願寺住職
浄土宗宗議会議員

神谷 英敏

〒062-0822 函館市銭亀町一〇一

花巻 廣隆寺

谷地 玄雅

暑中御見舞申しあげます

平成十四年

正覚寺

住職 江藤英賢

〒950-0001 武生市京町二一―一八
TEL〇七七八 (二二) 一三一九
FAX〇七七八 (二二) 六一一七

和歌山・西念寺

武田 脩彦

〒642-0001 海間市阪井四六六

宗議会議員

河本 眞龍

〒750-0001 萩市栢屋町四二一
電話〇八三八 (二二) 一五八七

宗議会議長

熊谷 靖彦

佐賀教区本應寺

〈浄土宗平和推進協議会の
国際貢献を期待する〉
宗議会議員

小田 義海

九品院住職
佐世保市大和町一八八―一

浄土宗神奈川教区教区長

成田 光俊

〒260-0001 鎌倉市材木座六一七―一九
大本山 光明寺中
電話〇四六七 (二二) 二四七六

青森教区

青岩寺

青山 浄晃

暑中御見舞申しあげます

平成十四年

弘経寺住職

金田進徳

〒302-0002 茨城県取手市白山二一九―二八

大蓮寺

蓮池光洋

〒371-0002 前橋市千代田町三―三二―二四

孤峰山
宝池院 蓮馨寺

呑龍上人奉祀・祈願所

糸原恒久

〒370-0006 川越市連雀町七一―一
電話〇四九(二二二)〇〇四三
FAX〇四九(二二二)〇六七六

赤坂六地藏尊

浄土寺

〒107-0002 東京都港区赤坂四―三―一五
電話〇三(二五八三)三六三〇

明福寺

福井豊信

〒320-0002 江戸川区江戸川三八―一

伊勢教区

山下法文

松阪市樹敬寺

愚鈍院 こつぶがや文庫主
住職

中村眞道

〒984-0002 仙台市若林区新寺三―十二―十七
電話〇二二(二五六)六〇五七

暑中御見舞申しあげます

平成十四年

宗源寺

齋藤价洲

〒110-0015 台東区東上野五十一-一六

函館 称名寺

〒040-0005 函館市船見町十八-十四
電話〇一三八(三三)〇五七四

勝願寺

〒350-0000 埼玉県鴻巣市本町八-二二三
電話〇四八(五四一)〇二二七

骨仏の寺

一心寺

〒590-0002 大阪市天王寺区逢坂二-八-六九
電話〇六(六七七二)〇四四四

晴雲寺住職

塚田弘導

〒594-0000 平塚市立野町六-一五
電話〇四六三(二二)二六三八

貞松院住職

山田和雄

〒392-0000 諏訪市諏訪二-十六-二十一
電話〇二六六(五二)一九七〇

願行寺住職

佐藤成順

〒140-0000 品川区南品川二-十一-十二

暑中御見舞申しあげます

平成十四年

梅窓院

住職

中島真成

東京都港区青山

2-26-38

電話 03 (3404) 8447

ホームページ

<http://www.baisouin.or.jp>

鎌倉大仏殿

高德院

〒222-0288 鎌倉市長谷四丁目二番八
電話 〇四六七 (二二) 〇七〇三
FAX 〇四六七 (二二) 五〇五一

天光院

真野龍海

<http://www.evamre.jp/tenkoin>
ryumano@venus.dline.jp

光円寺住職

佐藤良純

〒112-0002 文京区小石川四丁目二十一番八

横浜

大光院

〒222-0002 横浜市南区三春台一丁目三番九
電話 〇四五 (二四一) 七六七六
www.daikoin.com

浄土宗東京教区教区長
光取寺

大室了皓

〒114-0002 品川区上大崎一丁目一十五番十
電話 〇三 (三三四) 八三八四

浄土誌上句会

FORUM
浄土の広場

●庭

〈特選〉

庭師来て仕事始めの蚊遣り焚く

浜口 佳春

この蚊遣りは下に置いておくのでなく、腰に吊るものだろうか。そのようにできているのも売っているようである。それはどうであろうと、蚊遣りを焚くのが庭仕事の始めだという、ちよつとした意外性が面白い。

〈佳作〉

庭先を我が物顔に青とかげ

山本のり子

視力なき父が庭掃く梅雨の入り

新島 美和

蛞蝓の踏ん張っている庭の石

水野 司郎

●心

〈特選〉

朧夜の心ほぐるる民話かな

河合富枝

これまでの題の中でこの「心」は、最もむずかしいものではなかっただろうか。俳句では心、思いに属することは、あからさまに示

選者=増田河郎子

〈特選〉

師に譲る窓際の席青田風

石原

新

●自由題

さないというのが通例だからである。右の句は何とかうまく落ちつかせたようだ。

〈佳作〉

梅雨湿り心を込めて見舞状

細田 初枝

老僧の心の法話春深し

谷 しげ子

故郷や心長閑に草の笛

大場 清

〈佳作〉

緑陰に置き忘れたる木馬かな

結城 聡

ひらがなの屋号が読めず夏暖簾

仙道 裕香

湧くほどの力まいたなき春の雲

寺下 忠至

私達はすぐ俳句会を思い浮かべるが、同窓会でもよからう。普通窓際は上席にしないのだが、風のよく通るところを師に譲ったというのだ。師といっても、あまり堅苦しい会合ではなからうというところが見える。

自由題

浄土誌上句会のお知らせ

②季語ではありません

締切・七月二十日
発表・『浄土』二〇〇二年十月号
選者・増田河郎子（『南風』主宰）
応募方法
● いずれの題とも数の制限はありません。
● 特選各1名・佳作各3名
葉書に俳句（何句でも可）と、住所・氏名を必ずお書き下さい。
宛先
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
月刊『浄土』誌上句会係

参加作品 編集部選

庭
赤き緒の庭下駄千され柿若葉
庭隅にもの芽出づる日和かな
裏庭の牡丹無縁の仏守る
鉄線花庭の片隅いろどへり
竹秋や寺裏庭にダム望む
球場のみごとに変わる薔薇の庭
園庭に古今変らずのぼり舞つ
長靴のころがつており夏の庭
朝経の庭に響くや吊忍
虫かがり庭の闇空灯しけり
庭新緑鄙びた家に老い二人
心
虹生まる心安けし泉あり
河合富美枝
細田初枝
中島富士子
周東澄江
金谷友江
今井恵子
佐藤まり
山口信子
井村善也
浜口佳春
石原 新
中島富士子

夏草に心の錆の鉄路かな
水中花親の心得いくばかり
職を得し娘心きくら目に青葉
青葉濃し元氣な友に安心す
五重会や心願成就花万朶
老僧の心の法話春深し
竹とんぼ幼心や雲の峰
旅終えてふだんの心梅漬ける
噴水に心和むや葛蒲園
風鈴や心の乱れ消えし音
しやか祭り目ざす露店の心天
自由題
高層の生活しづかに梅漬ける
新茶酌む茶柱に今日を占ひて
片蔭に拾ひて行ける喪服かな
夏草や廃線さびし映の里
素足折り神妙になる庫裏の客
柿の花ボロンと跳ねて遊んでる
緑濃しダムへ單車の道占めて
節くれの手にまるめる草の餅
葛蒲湯に入りて孫と指相摸
石鹼玉海の景色を連れ去りぬ
路地裏に逃げ込む猫や苔の花
噴水の芯より夏が踊り出る
周東澄江
山本のり子
山本美代子
金谷友江
中島一子
谷しげ子
谷しげ子
山口信子
石原 新
浜口佳春
佐藤まり
河合富美枝
細田初枝
中島富士子
周東澄江
山本のり子
山本美代子
金谷友江
北川弘子
中村真一
池田伊吹
山口信子
小久保すゞな

漫画で楽しい仏教用語

漫画・藤井ひろし

無慚

この「むざん」、普通は無惨もしくは無残と書きますが、仏教語では恥じらいのないこと、羞恥心のないことという意味です。ですが、一般的には気の毒なという意味に使われます。確かに慚という字はあまり馴染みのない漢字ですので、仕方がないところです。慚は罪を罪として恥じるという、仏教の自己を正直に見つめる考え方、心の持ち方を意味する大事な言葉です。これを機に覚えておいてはいかがでしょう。もちろん書けたらもっと良いでしょうが。



編集後記

梅の実の落ちるがごとく母が逝く 岱潤

今本屋で日本流奈君の本が横積みで
大いに売れている。四月末日に放映さ
れたNHKスペシャルを契機に、全国
的に話題を集め、すでに三百万部を越
えたとの話もある。

日本流奈君とは今年十二歳の男の子
で、生まれたとき極小未熟児と先天性
腹壁破裂であったため、三度の手術を
し、そのために脳の水によって脳障害
を起こし、また薬の副作用で両眼のレ
ンズを摘出した。一人では立つことも
話すこともできないが、二歳から始め
たドーマン法のパログラムによって知
能を開発し、五歳の時より文字盤によ
って他者との意思の疎通もはかれるよ

うになって、八歳のとき文字盤を指し
て自らの自伝を刊行して以来、現在ま
で詩集など七、八冊の本を刊行してい
る。

その大人びた物言いと知識、感性は
とても十二歳の子が書いたとは信じが
たく、疑問を持つ人も多い。しかしW
カップに日本が決勝トーナメントに進
む時代だ、従来の常識は通じなくなっ
ているし、自分の知りえる世界などた
かが知れていると思った時、日本流奈
君も受け入れられるような気がした。
彼は言っている「知性の低い脳障害
児は見たことがない」「人が否定され
ないルールが大事なことだ」と。(長

ホームページ <http://www.jodo.ne.jp>

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤
斎藤光道
村田洋一
佐山哲郎

編集顧問

大室了皓

浄土

六十八巻七、八月号 頒価六百円
年会費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 平成十四年六月二十日

発行 平成十四年七月一日

発行人

真野龍海

編集人

佐藤良純

印刷所

株式会社 シーティイー

〒一〇五〇〇一一

東京都港区芝公園四・七・四明照会館内

発行所

法然上人鑽仰会

電話

〇三(三三)五七八 六九四七

FAX

〇三(三三)五七八 七〇三六

振替

〇〇一八〇八・八二八七

New & Used Cars
Takata & Co., Ltd.
SINCE 1965

あなたの一台を世界から

ベンツ・ポルシェ・

フェラーリ・ロールスロイス・

国内の各ディーラーにも

在庫の無い車種でも

世界中から輸入しお届け致します。



最新在庫情報をご覧ください。

<http://www.takataco.jp>
E-mail: union@takataco.jp

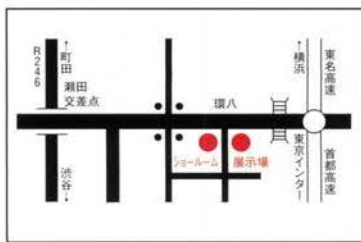
UNION

輸入元(外国自動車輸入協同組合員)
株式会社 高田商会

東京都世田谷区玉川台2-12-1 (〒158-0096)

営業時間：平日／9:30～20:00 日祝／10:00～18:00
定休日／年中無休

☎03-3708-1911 FAX.03-3708-2066



東名用賀インター新田交差点にむかってすぐそば

大本山増上寺蔵・残次二巻本〈重文〉

法然上人絵伝が 絵葉書になった!!

1セット 8枚組

美装封筒入り

定価:800円

(本体+税)
送料別



菩提寺修学の図・牛車
母子の別れと旅立ちの図
菩提寺修学の図・講義
叡山入室の図
後白河法皇に御談義の図
道俗教化の図(立教開宗)
善導和尚来現を拝写せしむる図
阿弥陀三尊影現の図

お申込みは下記まで
発行=法然上人讃仰会

東京都港区芝公園4-7-4
明照会館内 〒105-0011
電話/03-3578-6947
FAX/03-3578-7036
振替/00180-8-82187

上の絵葉書は実物と多少異なります。